

元気な草加 優しい越谷

衆議院議員・弁護士

細川律夫



NEWS LETTER

2007年9月27日 No.130

細川律夫国会事務所 Tel 03-3508-7513 Fax 03-3593-7148 E-mail g04091@shugiin.go.jp
南越谷事務所 Tel 048-989-8788 Fax 048-989-5300 HP: http://minshu.org/hosokawa/

福田内閣は国民に信を問え

安倍総理の突然の辞任で、国会は開幕直後から開店休業になりました。本来なら、参議院選挙後に敗北の責任を取って辞めるのが筋ですし、せめて内閣改造をせずに辞職すべきでした。所信表明演説をして今後の施政の骨格を明らかにし、その日から各党の代表質問というときに辞任するのは、無責任という批判を免れませんし、この間の事情を見るなら、責任の重圧に耐えかねて辞める道を選んだと考えざるをえません。インド洋の米軍艦船への補給法案を通しやすくするための辞任という説明もありましたが、直前の「職を賭する」との発言とあまりにも矛盾しますし、2週間以上の政治空白期間をつくるというのも大変問題です。また、APEC首脳会議に国を代表して参加し、意見を表明しながら、帰国直後に辞任するというのも、各国のわが国に対する期待を裏切るものであり、わが国の国際的評価を下げるものになるのではないかと心配です。

参院は小沢代表を首班指名

9月25日、国会で内閣総理大臣の指名が行われました。衆議院では、自民党の総裁に選出された福田康夫氏が選出され、参議院では民主党の小沢一郎代表が指名されました。本来なら、直近の選挙がより民意を反映しているので、小沢総理となるのが妥当ですが、衆議院の優越という憲法上の規定で、国会の議決としては福田氏が総理に指名されました。衆議院は「郵政選挙」で選ばれた議員でもあり、現在の国民の意識と大きく離れています。その意味からも福田総理は早期の解散に踏み切るべきです。

この日、小沢代表は記者会見で「個人的話ではなく、先の参院選で主権者たる国民の意思によって我々が過半数を与えられたことに最大の意義はある。」「自公政権は一日も早く終わっていただく以外にない。」などと語りました。



福田体制は復古型

自民党役員と新閣僚の顔ぶれをみると、伊吹幹事長、二階総務会長、町村官房長官をはじめ、派閥の領袖が並びました。小泉・安倍内閣の市場原理主義に修正が加わるとの期待も一部にはありますが、むしろ古い自民党の体質に戻る可能性が強い布陣です。民主党としては、誰が総理であっても、自公政権と正面から対決する構えです。

民主党は、安倍政権に対して、衆議院の解散で国民の意見を聴くべきだと訴えてきました。衆参のねじれ現象を前にして、福田新総理が、小泉・安倍路線と違った政策を提示するなら、まずは国民の信を問うため、早急に衆議院を解散すべきです。

細川代議士、NC法務大臣に

細川代議士は、民主党「次の内閣（ネクスト・キャビネット：通称NC）」の法務大臣に就任しました。これは、イギリスのシャドー・キャビネットに倣い、野党として政府の内閣に対峙しようというもの。「次の内閣」は党大会・両院議員総会に次ぐ議決機関でもあり、政策の基本方針や法案への対応、議員立法の検討



が行われ、それらの案件が次の内閣の閣議で審議され、承認されたものが党の方針となります。細川議員は、衆議院法務委員会

で民主党を代表し、鳩山邦夫法務大臣に政策論争を挑むこととなります。

現在、法務の課題は、民主党が以前から主張している人権擁護法案や選択的夫婦別姓の民法改正案、そして細川議員の提案している死因究明法案、あるいは尊厳死や国籍問題などです。また、政府提案では継続となっている共謀罪創設法案もありますが、この対応も課題の一つです。ただ、参議院で野党が過半数を占める現状から見て、政府が強行できる状況ではなくなったことは間違いありません。さらには、すでに2度目が行われた新司法試験や裁判員制度の導入など、司法制度改革の遂行も大きなテーマです。

細川議員は、「弁護士の経験も生かしながら、分かりやすい議論をしていきたい」と語っています。

引き続き労働法制担当も

NC法務大臣は法務委員会に属し、野党筆頭理事の役目も兼ねますが、先の国会から引き続き、労働法制も担当するため、厚生労働委員会にも所属します。この臨時国会には、政府提出の最低賃金法、労働基準法のそれぞれ改正案、そして新法の労働契約法案が継続

審議になっていますが、それぞれ問題がある内容です。細川代議士は、対案や修正案を準備し、よりよいものにする努力を続けています。最低賃金法については、労働者の生計費を重視する民主党案を提出、また、労働契約法案も約1年かけて政府案の4倍くらいの大きな法案を策定し、近く提出の予定です。参議院の過半数を背景にした、今後の与野党協議が注目されます。

ツルネン議員、3区セミナーへ

9月21日、恒例の「民主党3区セミナー」が越谷市中央市民会館で開かれました。講師は先の参議院議員選挙で再選を果たした、ツルネンマルテイ氏。テーマは「地球温暖化を食い止める条件」。温暖化が進行する危機的状況を語り、一人ひとりの市民ができることを今すぐやらなければならない、と強調しました。また、故国のフィンランドから宣教師として日本に渡った話などを、ユーモアを交えて語り、約100名の聴衆を魅了しました。



中央の和服姿がツルネン参議院議員（講演の後で）

